

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

可児市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・可児市教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握し、その改善を図る。

※本調査の結果は児童生徒の学力の特定の一部を示すものであり、この結果のみで児童生徒の学力の全体を判断できるものではありません。

(2) 対象学校・児童生徒

可児市内全公立学校 【11 小学校（6 年生） 5 中学校（3 年生）】

(3) 調査内容

教科に関する調査（国語、算数/数学、英語【中学校】）、生活習慣や学習環境に関する質問調査

(4) 調査日 小中学校国語、算数/数学：令和8年4月23日（木）

小学校質問調査：令和8年4月24日（金）～30日（木）

中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」：令和8年4月20日（月）～23日（木）

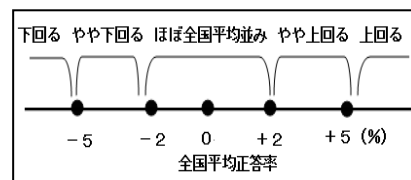
中学校英語「話すこと」：令和8年4月28日（火）～5月26日（火）

中学校質問調査：令和8年4月20日（月）～23日（木）

2 可児市における調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

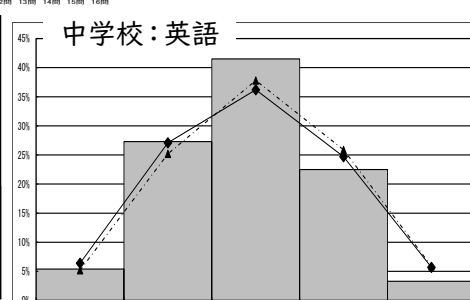
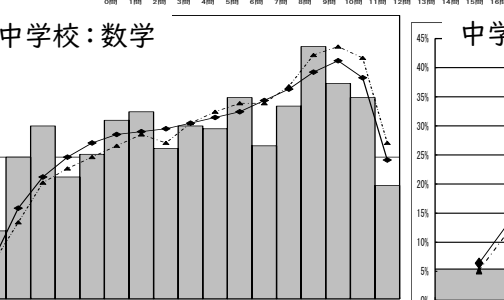
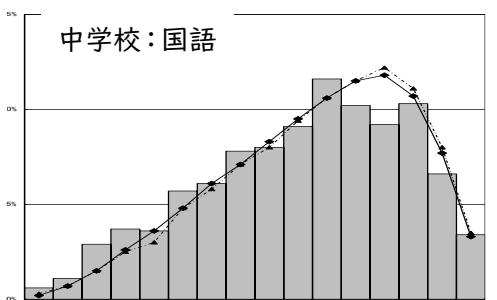
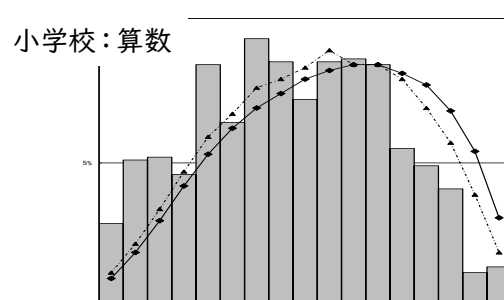
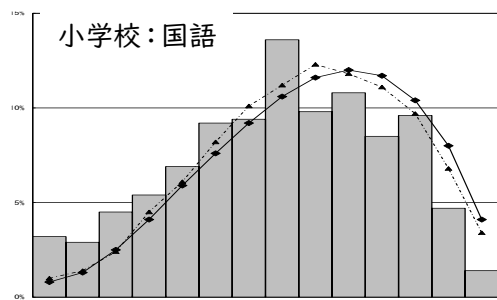
- ・小学校は、国語・算数とも全国平均を下回った。
- ・中学校は、国語・数学は全国平均をやや下回った。
- ・中学校英語は、ほぼ全国平均並みであった。



○正答数分布グラフ

（横軸：正答数 縦軸：割合） ■ 可児市 …▲… 岐阜県 -◆- 全国

※中学校英語は5段階のIRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）で表示



- ・ 小学校は国語・算数共に正当数が少ない児童の割合が高く、正当数が多い児童の割合は低い。
- ・ 中学校の国語・数学は正当数が少ない生徒の割合は高いが正当数が多い生徒の割合はほぼ全国平均並みである。
- ・ 中学校の英語の IRT バンド分布グラフから、全国と比べ IRT バンド 3 の割合がやや高い。
※IRT バンドとは、IRT スコアを 1～5 の 5 段階に区切ったものです。3 を基準のバンドとし、5 が最も高いバンドとなります。

○各教科の結果概要からみた特徴

- [小国]「知識及び技能（１）言葉の特徴や使い方に関する事項」に関わる設問に対する正答率は全国比より低いですが、昨年度よりも全国比が 2.8 上がった。
- [小算] 全てにおいて昨年度よりも正答率の全国比が下がった。
- [中国]「C 読むこと」に関わる設問に対する正答率は全国比より 0.1 上回り、昨年度よりも全国比が 3.6 上がった。
- [中算]「A 数と式」に関わる設問に対する正答率の全国比がやや低いですが、昨年よりも全国比が 2.2 高くなり、全体では昨年全国比より 0.3 上がった。

○課題となる特徴的な設問

- （「 」内は、設問の概要や出題の趣旨 （ ）内は、学習指導要領の内容・領域：評価の観点）
- [小国]「相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる」（話すこと・聞くこと：思考・判断・表現）
- [小算]「立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる」（図形：知識・技能）
「整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる」（数と計算：知識・技能）
- [中国]「目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」（話すこと・聞くこと：思考・判断・表現）
- [中数]「起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる」（データの活用：知識・技能）

＜課題解決への手立て＞

国語では、「話すこと・聞くこと：思考・判断・表現」に関する設問で弱さがみられました。自分の考えを整理して発信したり、相手の話の要旨を的確に聞き取ったりする学習場面を意図的に設定することで、話す・聞く力を高めていきます。

算数・数学では、「知識・技能」に関する設問で弱さがみられました。今後は、例えば体積の学習において、単に公式を適用するだけでなく、「体積とは何か」という概念の理解に立ち返る学習場面を設定するなど、確かな意味理解を基盤とした課題解決能力を育成していきます。

（２）児童生徒質問に関する調査の分析の概要

①多くの児童生徒が肯定的に回答した項目

番号	質問内容	小学校	中学校
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	90.0% (-0.7) [-3.0]	91.6% (-0.8) [-2.2]
9	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.5% (+0.1) [-0.5]	92.4% (+1.5) [-2.5]

11	人が困っているときは、進んで助けていますか	92.5% (-0.2) [-1.3]	92.6% (+1.8) [-0.5]
12	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	94.3% (-1.9) [-3.1]	95.3% (+0.2) [-2.1]
14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.6% (-0.2) [+1.5]	96.6% (+0.7) [+0.1]
17	友達関係に満足していますか	91.4% (+0.3) [-0.7]	93.2% (+2.0) [+0.4]
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	92.5% (0.0) [+1.4]	90.7% (-0.3) [+1.7]

数値：「当てはまる」「やや当てはまる」（番号21は「よくある」「時々ある」と回答した割合（全国比）〔昨年度比〕

調査結果から、児童生徒とも仲間関係や普段の生活に対する満足感の高さがうかがえます。

②学級生活に関わって

番号	質問内容	小学校	中学校
20	あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか	78.3% (+8.7) [R7 無]	81.5% (+14.0) [R7 無]
49	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	83.7% (+2.2) [+0.7]	91.0% (+6.5) [+1.5]
50	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	81.3% (+4.0) [-2.1]	85.2% (+7.3) [-1.6]

数値：「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した割合（全国比）〔昨年度比〕

全国と比較し、肯定的に回答した割合が高い傾向がみられます。特に、今年度から新設された質問番号20において、本市は全国を上回る結果となりました。心理的安全性が満たされている学級が多いことは本市の教育の大きな成果であると捉えています。

③ICT教育と主体的・対話的で深い学びに関わって

ICT教育に関わって、本市では昨年度児童生徒に配付する一人一台端末の更新を行いました。端末活用については次の表の通り、昨年度から大きな伸びがみられました。

番号	質問内容	小学校	中学校
35	5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	56.3% (+13.3) [+23.0]	78.2% (+23.1) [+25.0]

数値：「ほぼ毎日（一日複数）」「ほぼ毎日（一日一回）」と回答した割合（全国比）〔昨年度比〕

この結果は、端末更新をよい機会と捉え、各校で積極的なICTを活用した授業改善がなされた成果であると捉えています。

また、主体的・対話的で深い学びにかかわる質問に対して次のような結果でした。

番号	質問内容	小学校	中学校
39	5年生までに（1・2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	78.9% (+1.3) [-2.6]	86.1% (+7.3) [+3.1]
40	5年生までに（1・2年生のときに）受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	76.3% (+2.9) [+0.5]	91.0% (+6.7) [+3.5]

42	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	82.3% (-3.4) [-0.7]	88.5% (+1.5) [+3.4]
----	---	------------------------	------------------------

数値：「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した割合（全国比）[昨年度比]

さらに、学力調査とのクロス集計において、次のような傾向があることが分かりました。

- ・主体的な学びを進め、対話的な学びを通して考えを深めている児童生徒ほど、学力調査の平均正答率が高い
- ・ICTの活用に自信をもっている児童生徒ほど、学力調査の平均正答率が高い

一方、SNSや動画視聴の時間にかかわって、次のような結果がみられました。

番号	質問内容	小学校	中学校
4	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、スマートフォン等）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）	32.5% (-5.1) [+12.5]	51.2% (+1.6) [+20.2]

数値：「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」と回答した割合（全国比）[R6年度比]

※R6の質問内容は「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」

全国と同様本市においてもSNSや動画視聴の時間は、令和6年度と比較して増加しています。ICTの活用については前述の通り、活用に自信をもっている児童生徒ほど、学力調査の平均正答率が高いという側面もあります。SNSや動画視聴等受動的な利用にとどまらず、自律的・能動的に活用できるよう、情報モラル教育を含めた情報活用能力の育成に力を入れていきます。

3 全国学力・学習状況調査の活用について

- ・本調査において、正答率が低い問題については、市全体で課題を共有し、全職員の共通理解をもとにして、日々の授業改善に取り組みます。
- ・全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、各小中学校において、ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して、主体的・対話的で深い学びを生み出す授業改善の実現を進めていきます。そのような学びを通して、児童生徒が深く理解し、自分の考えや思いを豊かにし、それを自分なりに表現できることをねらいます。そして、児童生徒の未来の笑顔につなげるようにしていきます。